

# 「おとふけ」の 伝承

私たちのふるさと「おとふけ」。先人たちの労苦があり、いま、私たちの住む「おとふけ」がある。広報おとふけでは、音更町に根をおろし、ふるさとを築いてきた人たちの後世に語り継ぎたいお話しを紹介しています。



関本 初子さん  
大正14年2月11日生まれ。  
万年在住

## 私の生い立ちと

### 当時の音更市街

**私** は大正14年2月11日、音更市街で松田家の長女として生まれました。父は十勝支庁の苗圃で苗作り（桑畑）をしていました。戦前は士幌線の東側に苗圃（桑）があつて、音更市街には養蚕組合もありました。私の家でも蚕を育てていました。

## 戦時中の結婚と空襲

### 昭

和19年、縁あつて関本徳男と結婚しました。主人は15歳から親戚の鍛冶屋で6年間の修業と1年間のお礼奉公をした後、生活のために国鉄保線区で働きました。翌20年7月14・15両日、音更空襲がありました。爆弾が

投下された瞬間、防空壕のふたがボンと飛んで、爆風で一瞬呼吸が止まり、外へ出てみると近くに大きな穴が空いていました。私たちの家も直撃を受けて、何もなくなつてしまいました。父は空襲で亡くなつた方を戸板にのせて、弔いのお手伝いをしたと聞きました。この話は一生忘れることができません。

## 万年で鍛冶屋を開業

### 万

年市街に鍛冶屋がほしいと請われ、昭和23年、夫は万年に行くことを決意しました。夫が修業で身につけた技術を生かすことができると思ひ、私は黙つてついて来ました。新たな地で生きていくために、夫に仕事を一から教えてもらいながら、夫婦二人で鍛冶屋を始めました。最初は食べるだけでやつとの生活でした。私はいつも父から「人のやることは何でもできる。できないのはやる気がないからだ」と教えられてきました。ですから本当にあきらめず、何でもやってきたつもりです。

## 万年での

### 沢山の思い出

### 昭

和30年に万年保育所が開設され、臨時保育母として働くことになりました。その頃の万年地域は80戸以上あり、保育所には約40人の園児がいて、にぎやかでした。数年後に季節保育所から通年に変わり、朝7時に園児が集まると、オムツを洗つたり大変忙しい日々を送りました。その後、仕事は保母から給食の調理が中心となつて、20年以上勤務しました。今でも地域の運動会などで教え子たちから「先生の顔を見ると怒られたいことを思ひ出す」「おばさんも年とつたな」と声をかけられます。歳月を経ても、私にはかわいい子ども時代のことが思ひ出されます。夫は運転免許を取得して以後、出張修理したり、酒を飲んだお客さんを家まで送っていました。近くに自動車整備工場ができてからは大きな機械類はそちらに任せて、何でも屋として頑張っていました。金子元町長が万年に視察に



関本さん宅に飾つてある金子元町長直筆の書。

来る時は私たちの家に寄つてくれて、夫といろいろなお話しをしていたようです。金子さんに頂いた直筆の書を大切に工場に飾っていました。今は家に飾つてありますが、私たち夫婦の宝物です。夫は「生きている間は仕事をすると」と言つて、90歳まで鍛冶屋を続けました。本望だったと思ひます。

## 周囲の皆さんへの

### 感謝の思い

**札** 幌にいる息子が「母さん来ないか」と言つてくれますが、私は万年が好きです。この地で暮らしていることが、私にとって何よりの幸せなのです。万年の人々は私に家族同様に接してくれます。地域の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。